

06年タコ

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	漁獲	産地	輸入	消費地	消費地	消費地	在庫	産地	輸入	消費地	消費地	モロ	モー	リ	カナ	タ	ス	ペ	ベ	ト	中	メ	チ
				生(%)								ック	コ	タ	ニア	リー	イ	ン	ナム	国			
17	55	5.7	55.5	24.8	915	###	401	620	820	1490		8.7	19.5	3.9	3.0	2.3	5.6	9.9	0.2				
18	50	6.6	48.4	22.8	888	###	448	627	839	1499		8.7	16.6	2.6	1.9	1.4	5.5	8.2	1.5				
%	91	116	87	92	97	99	112	101	102	101		100	85	67	63	61	98	83	656				

輸入の動向

18年の輸入量は、4.8万トンで再度減少傾向となった。これは主力のモーリタニアを始めアジア諸国からの輸入減少によるものである。

本年の西アフリカでの漁は、モロッコを主体に長期休漁と漁獲量や漁場の規制、サイズ規制の中、依然生産自体の大きな伸びはみられておらず、資源も回復していない。

本年の西アフリカ夏ダコトロール漁（漁獲枠9,000トン）は、18年4月1日から17年5月31日まで休漁、船凍・陸凍とも6月5日解禁で9月30日までとなったが、昨年より1 - 2ヶ月早い解禁となった。ダクラの陸凍は2, 3, 4番主体で、船凍はモンゴイカとの混獲で5,6番主体推移したが何れも低調な漁であった。

モロッコの冬ダコ漁は10～11月(昨年9～12月)の休漁で本年は12月1日解禁となり並み漁で、5番以上の大型主体であった。また11月1日解禁のモーリタニア(5月は自主休漁、9,10月休漁)含めて(スペイン船も含む)並み漁で6, 5, 7番主体であった。

市況は、休漁措置、漁獲減枠の設定(TACの設定)、サイズ規制等も続いているが、高値疲れや、国内マーケットの縮小もあるが、現地価格の高騰やEUとの買い付け競争の中で輸入価格、消費地価格ともやや上昇傾向となった。

大型サイズはイタリアを始めとするEU諸国との競合も多く、しかもユーロ高の中で、日本サイドは苦戦を強いられている。

輸入国は、昨年に続いてモーリタニアが34%で前年(35%)並み、モロッコも18%(前年16%)であった。中国が17%(前年18%)とやや少なくなっており、続いて、ベトナム、カナリー諸島、タイ、メキシコとなっており、メキシコが目立っている。

輸入価格は、627円と前年(620円)をやや上回った。

また本年も、マダコ、ミスダコ、ヤナギタコ、イワダコ等、国内外のタコ類の供給があり国内需要の変化に対応し、多様化している。

在庫量

本年の平均在庫量は、2.3万トンとほぼ前年(2.3万トン)並みであったが、依然水準としては低かった。

越年在庫は1.8万トンで前年(2.4万トン)を上回っており、輸入量の減少がそのまま在庫の減少に繋がっており、平成年代で最も少ない2万トン割れの越年在庫となった。

本年の在庫アソートは品質の悪い大型の3, 4番が残っている。

消費地入荷量と価格

18年の消費地入荷量(10大都市)は、2.3万トンで引続き前年(2.5万トン)を下回っており、引続き消費地市場での取扱の減少が目立っている。

本年も多少特売もみられたが、マーケットの回復までには繋がっていない。

家庭消費支出は、単価高の影響もあって量的には減少、金額では若干増えているのが顕著。

価格は、839円で前年(820円)をやや上回り、搬入価格の上昇を反映した格好となった。